

○天然痘対策講演会

那覇検疫所の情報発信の一環として、検疫感染症に関する最新情報を広く沖縄県内の医療関係者、行政関係者へ情報提供するため、沖縄県健康福祉部と共催で講演会を開催しました。

〈目的〉 天然痘(痘そう)は1980年に根絶宣言が出されましたが、WHOが生物テロによって再び発生することを警戒したことを受け、我が国では2003年に天然痘を1類感染症、検疫感染症に位置づけました。しかしながら、今日では患者の診察や種痘を実施した経験のある医師がほとんどいないのが実情です。こうした状況を踏まえ、天然痘の臨床像、治療、公衆衛生対策および種痘の実技等について、県内の医療関係者、行政関係者にわかりやすく伝え、健康危機管理体制の確立に役立てるよう講演会を開催します。

〈日時〉 平成23年7月5日(火) 19:30～21:00

〈場所〉 沖縄県医師会館 3階ホール (南風原町字新川218-9)

〈講演〉 【座長】 那覇検疫所長 柏樹 悦郎

【講師】 『我が国における天然痘対策について』

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 部長 金谷 泰宏 先生

【講義】 ①疫学(天然痘の起源、日本における天然痘の流行)
 ②診断(天然痘ウイルス、臨床症状、病型分類、天然痘ウイルスの感染)
 ③検査(検体採取、蛍光抗体法によるウイルス抗原の検出)
 ④予防(種痘法の開発、天然痘ワクチンの接種、国産痘そうワクチン(LC16m8))
 ⑤治療(天然痘治療薬(未承認) シドフォビル(ビスタイド)、治療薬(経口)の開発)
 ⑥対策の現状と課題(天然痘対策行動計画(生物テロに対する対応の概要)、天然痘(痘そう)に関する検疫ガイドライン(案)の概要について)

【実技】 2又針を用いた種痘手技、2又針の形状比較(日本とWHO標準)

〈参加者〉 検疫所14名、沖縄県19名、自衛隊6名、琉球大学4名 計43名



講演会(質疑応答)



実技(2又針を用いた種痘手技)